

## 表紙の説明

夕暮れの田沢湖

池上 均 陸自73

田沢湖は東北秋田県にあり、ほぼ岩手県に近い東部の山塊に位置しており、日本で最も深い湖で最大深度は423mである。湖水標高は約250mであるからその最深部は海面下170mを超える海の底だ。また透明度も摩周湖と変わらぬほど澄んでおり、そばに立つと引き込まれそうだ。

戦時体制下の昭和16年、食糧増産と電源開発の目的で近くを流れる強酸性の玉川を田沢湖に流入させたため、一気に湖の魚類が死滅した。

死滅したとほぼ諦められていた幻の魚「国鱒」は、平成20年になって山梨県の西湖に生存しているのを発見し、これをきっかけに国鱒の復活が試みられている。

強酸性となってしまう湖も今は中性化が進んでおり、遊覧船に乗って湖を一周すると少しずつ魚も増えているのが判る。

また田沢湖は永遠の美しさを求めて龍になったという辰子伝説も有名で湖には黄金に輝く辰子像が美しい。

9月、青森から南下する数泊の旅行中、田沢湖の湖畔レストランで夕食をとっていたところ、ちょうど日没を迎え、湖に沈む夕陽の余りの美しさに水際に走り出て撮影したすずきの穂と湖面に映る夕陽の一枚である。

(偕行社フォトクラブ会員)